

共生・協働の地域社会づくり

鹿児島県内で元気に共生・協働に取り組む団体を紹介します。

志布志市

ボランティア団体

《問い合わせ》0960(2516)5404

◎あんしん・あんぜんパトロールしぶし創年団

豊かに安心して暮らせる地域コミュニティを目指して

カラフルなステッカーが貼られた自動車。志布志市内を通行していると目にする光景である。

生涯学習講座で「自分たちに何ができるかを考え、行動に移すことの必要性」を学んだ仲間17人が、子どもが被害者となる事故・事件を1件でもなくしたいという思いから、平成17年12月、犯罪や事故などの未然防止を目的とした「あんしん・あんぜんパトロールしぶし創年団」を立ち上げた。

団長の前原徳雄まへはらのりおさんは「鹿児島県地域防災推進員の資格を取得したこともきっかけとなり、地域の安心・安全に貢献できる組織をつくることを決め、設立しました」と話す。団体名の「創年」は「新たな人生に挑戦する、生涯現役を目指す人々」を意味するという。

しぶし創年団は、現在、20代から70代の多様な職種の会員約340人で構成されている。設立後、安心・安全まちづくりサポーターの養成や防犯・防災マニュアルの作成などを行っているが、登下校時のスクー

▼「おはようございます！」子どもたちの元気な声が行き交う。



ルガードや防犯パトロールは、会員のライフスタイルに合わせた場所、時間に応じ、ほぼ毎日、市内の至るところで実施されている。

子どもの笑顔が描かれたステッカーは、創年団の顔ともいえる広報活動。会員は自分の車に貼り、市の社会福祉協議会やタクシー会社などにも呼びかけをし、昼夜を問わずステッカーを貼った車が走るように努めている。また、青色回転灯57台は、市の補助事業を活用して整備した。

こうした目に見える活動の広がりによって、街頭犯罪が30%減少したとの報告も地元警察署からあり、地域防犯の一助になっていることが会員の志気を高めているようだ。

「将来は、市の人口の5%である2千人まで会員を増やしたいですね。常に子どもたちの成長を見守るまなざしが犯行の抑止効果につながるものと思います」と今後の意気込み

マニュアルは緊急時に役立つ内容となっており、AEDの使用方も掲載。▶



▲救命救急・AED取り扱い講習のようす。



団長 前原さん

「ご苦労様」「ありがとうございます」という声かけが活動の励みになります。

を語る前原さん。

「自分たちの地域を自分たちで守るためには、独自の組織では限界があります。さまざまな組織・団体と情報を共有し、地域や学校、職場、家庭と協働しながらこれからも頑張っていきたい」。創年たちの夢は果てしなく、そして活動はまだまだ続く。

◎共生・協働推進室（県庁市町村課内） ☎099-286-2241

◎共生・協働センター（かごしま県民交流センター内） ☎099-221-6605

関連情報は、県ホームページの「共生・協働（NPO・ボランティア）」にも掲載しています。

▼きれいな海を守りたい。



日本でも有数のサーフスポットとして知られている種子島。恵まれた地形のおかげで、いつでもどこかの海岸でサーフィンを楽しむことができるのが魅力。県外からの移住者も多い。

よらーいきサーファーパトロール隊は、平成16年6月、西之表市サーフィン連盟の会員により結成された。地元の警察署と連携して交通安全習慣のピラ配りや防犯パトロールなどの活動を行っている。現在隊員は約60人。「よらーいき」は種子島の方言で「一緒に」と言う意味だ。

西之表市

ボランティア団体

《問い合わせ》☎099-7(22)03588

◎よらーいきサーファーパトロール隊

一緒に守ろう、海の安全

隊長の元木光浩もときみつひろさんに話を聞いた。「もともとサーファーが被害者だったんです。サーフィンをしている間に車の中

や更衣室で財布やカメラが盗まれることがよくあったんです。旅行者は南国気分です。旅行者は南国気分です。旅行者は南国気分です。車に鍵をかけていないことが多いですからね。なんとかできないかと思っていたときに、たまたま警察署からパトロール隊を結成しないかと声がかかったそうだ。

パトロール隊の拠点は、西之表市内のサーフショップ。隊員はサーフィンに行ったときに、海岸付近で車のドアロックや貴重品管理の声をかけたり、波を見に行くついでに防犯パトロールを行ったりする。元木さんは、自殺をしようとしている高校生を発見し、助けたこともある。「台風前で海が荒れているのに、サーファーでない人が海に入っていくようとしていたのでおかしいと思ったんです」とそのときの様子を語ってくれた。

また、種子島のきれいな海を守るための活動として、毎月第3日曜日には、ビーチクリーン作戦も行っている。種子島のサーフ



交通安全・車上ねらい防止のピラ配り。▶サーフボードも大活躍。

おかざわつとむ
隊長 元木さん、副隊長 岡澤 勲さん

種子島にサーフィンをしに来てください。

▼この波が種子島の魅力。



今後、警察や行政、地域の人たちと一緒に、活動を広げていくということだ。

ポイントに、ほとんどゴミが落ちていないのはこうした活動のたまものだ。
元木さんは言う。「以前はサーファーの中にもマナーの悪い人がいたと思いますが、このような活動をすることで意識も変わってきていると思いますよ。サーファーは、自分の世界を持っているので、パトロール隊の活動も自主性を尊重しています。でも、自分たちのサーフィンのためにやっていることが、地域の防犯や海を守ることにつながるの

